

1-5 インド学仏教史

研究・教育活動の概要と特色

本研究室の伝統は「インド学仏教史」という呼称に体现されている。後藤は古・中期インドアーリヤ語文献（ヴェーダ語，サンスクリット，パーリ語など）を，インド・イラン共通時代，さらにはインド・ヨーロッパ祖語時代をも考慮に入れて研究している。この方面においては今日世界に誇る拠点といえる。桜井は，研究室の伝統を受け継ぎ，インド，チベットのタントラ仏教を中心に未開拓の分野の解明に努め，さらに，仏教の展開を初期仏教から辿って跡付けている。2007年4月に赴任した吉水は，本研究室におけるインド哲学研究の伝統を新たな角度から復興し，初期中世のヒンドゥー教興起の時代に司祭階級（バラモン）が，ヴェーダの伝統の継承と他学派との論争を通じて，人間の認識能力と行為規範をどのように考えたかを解明している。

本研究室は「インド学仏教史」をその歴史的展開の両端から探求してきた。ヴェーダ研究はインド学をその創成期からリードしてきた（我が国には必ずしも根付いていなかった）分野，密教研究は本研究室が先鞭をつけ国内外で最近特に盛んな分野と言う意味でも，軸の両端である。厳密な原典研究，文献学を骨格とし，儀礼，宗教，思想などを扱う。ヴェーダの宗教とインド密教との間には時代の隔たりを超えて連なる要素があり，インド哲学研究を専門とする吉水が赴任したことで，古代から中世にかけてのインドの宗教と文化に見られる様々な繋がりを共同で研究することが可能になった。

後進が育ちつつある分野は，アヴェスタ，ヴェーダ文献を中心とする文法，祭式，思想，ウパニシャッドから仏教興起時代へ懸けての宗教・思想，古典期の古い文献，初期仏教，インド・チベット仏教の儀礼と思想などであり，国内外の専門家と協力して研究を進めている。

宗教学専攻分野と協同運営する「印度学宗教学会」は，文献研究の方法・成果を宗教学，民俗学，民族学と相互検証する機会として機能している。言語研究の面でも言語学専攻分野と協力することで本大学院の特長を活かしている。

I 組織

1 教員数（2011年9月末現在）

教授：2

准教授：1

教授：後藤敏文、桜井宗信

准教授：吉水清孝

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
5	0	4	2	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
07	2	0	1	1
08	1	1	3	3
09	2	1	0	0
10	1	0	0	1
11	0	0	0	0
計	6	2	3	5

* 2011年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	1	0	1
08	3	0	3
09	0	0	0
10	0	1	1
11	0	0	0
計	4	1	5

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

笠松 直, 2007 年度, 「火の礼拝—Maitrāyaṇī Saṃhitā I 5,1-14 訳注研究—」
(課程博士),

審査委員: 教授・後藤敏文 (主査), 教授・桜井宗信, 教授・鈴木岩弓,
准教授・吉水清孝

菊谷 竜太, 2008 年度, 「ジュニャーナパーダ流に関する文献学的研究
—Dīpaṅkarabhadra 著 Guhyasamājamāṇḍalavidhi-Sārdhatriśatikā, 前段階の
奉仕儀軌 (pūrvasevāvidhi), テクスト校訂・訳註研究—」 (課程博士),
審査委員: 教授・桜井宗信 (主査), 教授・後藤敏文, 教授・鈴木岩弓,
准教授・吉水清孝

倉西憲一, 2008 年度, 「ヤマール文献の研究—Kṛṣṇayamāritantra を中心に—」
(課程博士),

審査委員: 教授・桜井宗信 (主査)、教授・後藤敏文, 教授・鈴木岩弓,
准教授・吉水清孝

尾園 絢一, 2008 年度, 「パーニニが言及するヴェーダ語形の研究—重複語幹
動詞を中心に—」 (課程博士),

審査委員: 教授・後藤敏文 (主査), 教授・桜井宗信, 教授・千草眞一,
准教授・吉水清孝

村上幸三, 2010 年度, 「シャンカラにおける無明の神学」 (論文博士),

審査委員: 教授・後藤敏文 (主査), 教授・桜井宗信, 教授・鈴木岩弓,
准教授・吉水清孝

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	2	0	2	0	4
08	6	3	3	0	12
09	5	1	1	0	7
10	4	1	0	0	5
11	11	0	0	0	11
計	28	5	6	0	39

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	1	8	0	0	9
08	1	5	1	0	7
09	2	4	0	0	6
10	2	8	0	0	10
11	2	7	0	0	9
計	8	32	1	0	41

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』をめぐって—『宝性論』「自然不休息仏業品」及び『性起經』との関係を中心に—」, 『印度學佛教学研究』第59巻, 2010年.

伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』の対応関係について」『印度學佛教学研究』第60巻, 印刷中

Jun'ichi OZONO "The Vedic intensive forms found in Pāṇini-Sūtra : the problem of some *nipātana*-forms" 『印度學佛教学研究』第56号, 2008年3月.

Junichi OZONO "Das Vedische bei Pāṇini" Studien zur Indologie und Iranistik, Band 27, 2010 (掲載決定, 2011年発行予定)

笠松直 「「祭火の礼拝」とその義務」, 『印度學佛教学研究』第56巻第1号, 2007年.

笠松直 「Maitrāyaṇī Saṁhitā「祭火の礼拝」章の構成について」『印度學佛教学研究』第57巻第2号, 2009年.

Ryuuta KIKUYA "The Transmission of Utpattikrama Theory of Jñānapāda School in Guhyasamāja Cycle", The Mikkyo Bunka(Quartely Reports on Esoteric Buddhism), 2012 (掲載予定) .

Ryuuta KIKUYA "Reconstruction of Buddhaśrījñāna's *Caturaṅgasādhana",

Journal of Indian and Buddhist Studies(Indogaku Bukkyōgaku Kenkyū), Vol. LX No.3, March 2012 (掲載予定) .

菊谷竜太 「インド密教における『秘密集会タントラ』の受容と展開」
『日本佛教学会年報』77号, 2012 (掲載予定) .

Ken'ichi KURANISHI “Śrīdhara and his works on the Yamāri cycle” Esoteric Buddhist studies : identity in diversity : proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5 Sept.-8 Sept. 2006 / editorial board, March 2008.

倉西憲一 「ヤントラ考」『佛教学』第50号, 2008年.

Sudan SHAKYA “A study of the Āryamañjuśrīnāmasaṃgītiṅkā of Mañjuśrī kīrti — Focusing on its textual characteristics —”, Esoteric Buddhist studies : identity in diversity : proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5 Sept.-8 Sept. 2006 / editorial board, March 2008.

スダン・シャキヤ 「ネパールに生きる密教儀礼について —法界語自在マンドラ儀礼の調査報告—」, 『密教資料研究紀要』第10号, 2008年.

スダン・シャキヤ 「仏教文献に見られる文殊の解釈の展開について」
The Proceedings of the 2008 Korean Conference of Buddhist Studies, 2008年.

スダン・シャキヤ 「スヴァヤンブー仏塔と『ナーマサンギーティ』をめぐって」, 『現代密教』第19号, 2008年.

スダン・シャキヤ 「ナーマサンギーティ文殊」の図像と典拠についての一考察」, 『密教図像』第27号, 2008年.

スダン・シャキヤ 「ネパールの巡礼祭ディーパンカー・ヤートラーについて」, 『善通寺教学振興会紀要』第13号, 2008年.

スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』と「法界語自在にマンドラ」について」, 『密教学研究』第40号, 2008年.

スダン・シャキヤ 「仏教文献に見られる文殊の解釈の展開について」, 『密教学』45号, 2009年.

スダン・シャキヤ 「お釈迦さまのふるさと ネパールの仏教(1)(2)」, 『大法輪』第76-7巻, 2009年.

Sudan SHAKYA “The Interpretation of Ādibuddha: as describe in the

- Nāmasaṃgīti commentaries”, 『印度學佛教學研究』第 58 号第 3 号, 2010 年.
- Sudan SHAKYA 「Vasundharā と Vasudhārā」, 『印度學佛教學研究』第 59 卷, 2010 年.
- 中村隆海 「Veda 文献における pra-√jñā の語義と用法」『松濤誠達先生古稀記念梵文学研究論集』松濤誠達先生古稀記念会（編）, 大祥出版, 2007 年.
- 西村直子 「月と神々の食物－Śatapatha Brāhmaṇa I 6,4（新月祭の Upavasatha）」, 『論集』34 号, 2007 年.
- Naoko NISHIMURA “The mantra *g(h)oṣád asi* in the Yajurveda” *Münchener Studien zur Sprachwissenschaft* 63, 2003 年（2009 年刊行）.
- Naoko NISHIMURA “Change of the theory about Soma’s circulation in the Śatapatha-Brāhmaṇa”, 『印度學佛教學研究』第 57 卷第 3 号, 2009 年.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における胎児の発生と輪廻説」『論集』第 36 号, 2009 年.
- 西村直子 “*āmikṣā* and *payasyā*: Processing of fermented milk in ancient India” 『印度學佛教學研究』第 59 卷, pp.10–16, 2011 年
- 西村直子 「ヴェーダ文献における発酵乳と Soma の神話 — *sāmnāyya* を中心として」『論集』印度学宗教学会 第 37 号, pp.141–158, 2010 年 [2011 刊行]
- Naoko NISHIMURA “*úlba-* and *jarāyū-*: Foetal appendage in Veda” *Journal of Indological Studies* 23, 印刷中
- Naoko NISHIMURA “Vedic *āti-pavīpū*” 『印度學佛教學研究』第 60 卷, 印刷中
- Yumi FUJIMOTO “On rules of Upasaṃpadālocanā in Vyavahārabhāṣya 1” 『印度學佛教學研究』第 60 卷第 3 号 2011 年
- 松森大樹 「Caryāmelāpakapradīpa に見られる Subhāṣitasamgraha の引用について」, 『印度學佛教學研究』第 56 卷第 2 号, 2008 年.
- 山田智輝 「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌 VI 61 の研究」『総合地球環境学研究所 プロジェクト H-03 「環境変化とインダス文明」2007 年度成果報告書 プロジェクトリーダー：長田俊樹』総合地球環境学研究所・インダスプロジェクト, pp118–124（註 pp137–139）, 2008 年

- 山田智輝 「Ṛgveda VI 61 –Sarasvatī 讃歌–」 『印度學佛教学研究』 日本
印度学仏教学会，第 57 卷第 2 号，pp844–847，2009 年
- 山田智輝 「Ṛgveda における Sarasvatī —RV VII 95,96 を中心に—」
『論集』 印度学宗教学会，第 37 号，pp203–217，2010 年
- Tomoki YAMADA 「The Image of Ṛgvedic Sarasvatī: RV VII 95, 96」 『印
度學佛教学研究』，第 59 卷第 3 号，pp1103–1108，2011 年

(2) 口頭発表

- 伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』における如意宝珠の比喻」，第52回印度
学宗教学会学術大会，金沢大学，2009年5月。
- 伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』について—『宝性論』『自然不休息仏業
品』及び『性起經』との比較から—」，日本印度学仏教学会第61回学術
大会，立正大学，2010年9月。
- 伊久間洋光 「『智光明莊嚴經をめぐって—自性清浄心から如来蔵へ—」
豊山教学振興会第 39 回教学大会 於真言宗豊山派宗務庁舎 2010 年 11
月 5 日
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』」日本印度学仏教学会第
62 回学術大会 於龍谷大学 2011 年 9 月 7 日
- 井田克征 「ヒンドゥータントリズムにおける酒」第58回日本印度学仏
教学会学術大会，四国大学，2007年9月。
- 尾園絢一 「Pāṇini が挙げるヴェーダ語形 *dādharti*, *dardharti*, *dadharṣi*」
第 50 回印度学宗教学会 関西大学 2007 年 6 月 9 日
- 尾園絢一 「Pāṇini-Sūtra に見られるヴェーダ語の intensive 語形につい
て」第 58 回日本印度学仏教学会 四国大学 2007 年 9 月 4 日
- Junichi OZONO “Pāṇinis Angaben zum Vedischen” 31. Deutscher
Orientalistentag Marburg 20.-24. Sept. 2010
- Junichi OZONO “The periphrastic perfect in the Vedic language and Pāṇini’s
Grammar” The Fifth International Vedic Workshop. Vedic śākhās: Past,
Present and Future), Bucharest (Romania), 20–23 September 2011.
- 笠松直 「MS I 5,7 —晩と早朝の「祭火の礼拝」—」，印度学宗教学会第 50
回学術大会，関西大学，2007 年 6 月。
- 笠松直 「「祭火の礼拝」とその義務」，日本印度学仏教学会，第 58 回学術

- 大会，四国大学，2007年9月。
- 笠松直『マヌと五人の息子たち』印度学宗教学会第51回学術大会，宮城学院女子大学，2008年6月。
- 笠松直「Maitrāyaṇīsaṃhitā「祭火の礼拝」章の構成について」，日本印度学仏教学会第59回学術大会，愛知学院大学，2008年9月。
- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流と『秘密集会』積タントラ」平成23年度密教研究会学術大会，高野山大学，2011年7月15日。
- 菊谷竜太「インド密教における『秘密集会タントラ』の受容と展開」2011年度日本佛教学会学術大会，北海道大学，2011年8月31日。
- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流と『吉祥金剛心髓莊嚴タントラ』」日本印度学佛教学会第62回学術大会，龍谷大学，2011年9月7日。
- 倉西憲一 「ヤントラ考 — ヤマリー文献を中心に—」，仏教思想学会，東京大学，2008年7月。
- Ken'ichi KURANISHI “On the abhiṣeka ritual of Yamāri cycle” The 14th World Sanskrit Conference，京都大学，2009年9月。
- 倉西憲一「Māraṇaに関する一考察」，日本仏教学会，立正大学，2009年9月。
- Kenichi KURANISHI “Study on the Yantra. — in the Kṛṣṇayamāritantra —” International Indology Graduate Research Symposium, Oxford University 2009 9.27
- Sudan, SHAKYA "The Iconography of Nāmasaṃgīti-Mañjuśrī in Nepal The 3rd International Congress of Cultural Atlases (ECAI) Russian Academy of Science, Moscow", 2007年5月。
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』と「法界語自在マンドラ」について」日本密教学会，東京，2007年10月。
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ文殊』の図像の典拠とその用例をめぐって」，密教図像学会，法楽寺，2007年12月。
- Sudan SHAKYA “The interpretation of the Mañjuśrī in the Buddhist Tantric literatures”， Korean Association of Buddhist Studies, Dongguk University, Seoul , 2008年5月。
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』の註釈に見られる本初仏の解釈について」，日本印度学仏教学会第60回学術大会，大谷大学，2009

年9月.

スダン・シャキヤ, 「ネパールの生き神クマーリー —ヒンドゥー教徒と仏教徒の信仰をめぐる—」, 第53回印度学宗教学会, 大阪国際大学, 2010年5月.

Sudan SHAKYA “The interpretation of twelve syllables of the *Nāmasaṃgī*”, 12th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, University of British Columbia, 2010.8.

スダン・シャキヤ 「ネパールにおける *Vasudhārā* —*Vasundharā* と *Vasudhārā*—」, 日本印度学仏教学会第61回学術大会, 立正大学, 2010年9月.

西村直子 「*Śatapatha-Brāhmaṇa* における Soma 循環理論の変遷」, 日本印度学仏教学会第59回学術大会, 愛知学院大学, 2008年9月.

西村直子 「ヴェーダ文献における胎児の発生と輪廻説」, 第52回印度学宗教学会学術大会, 金沢大学, 2009年5月.

Naoko NISHIMURA “Some aspects of Vedic embryology” 14th World Sanskrit Conference, Kyoto University, 2009.9.

西村直子 「ヴェーダ文献における発酵乳加工」 印度学宗教学会第53回学術大会, 大阪国際大学, 2010年5月.

Naoko NISHIMURA “*āmikṣā* and *payasyā*: Fermented milk in ancient India —Soma, Indra, and the milk—” 20th International Association for History of Religion World Congress, University of Toronto, 2010.8.19.

西村直子 「*āmikṣā* と *payasyā* —古代インドにおける酸乳加工への一視点」 日本印度学仏教学会第61回学術大会, 立正大学, 2010年9月.

Naoko NISHIMURA “Cows and bulls in Old Indo-Aryan literature” (招待発表) インダスプロジェクト国際シンポジウム“Environmental change and the Indus Civilization” 於・人間文化研究機構 総合地球環境学研究所(京都) 2011年8月

西村直子 「Veda文献における動詞 *ati-pū*」 第62回 日本印度学仏教学会学術大会 龍谷大学 2011年9月

Naoko NISHIMURA “The Development of the New- and Full-Moon Sacrifice and the Yajurveda Schools: mantras, their *brāhmaṇas*, and the offerings.” 5th International Vedic Workshop Novotel, Centre of Eurasian and Afroasiatic Studies (CEAS) (Bucharest, Romania)

2011年9月

Naoko NISHIMURA “Processing of dairy products in the Vedic ritual,
compared with Pāli” 15th World Sanskrit Conference (Veda section)

Rashtriya Sanskrit Sansthan (RSKS) (New Delhi, India) 2012年1月 (予
定)

藤本有美 「Vyavahārabhāṣya 第1章における upasaṃpadālocanā の規定につ
いて」 日本印度学仏教学会第61回学術大会 立正大学 2010年9月

松森大樹 「Caryāmelāpakapradīpa に見られる Subhāṣitasamgraha の引用につ
いて」, 印度学仏教学会第58回学術大会, 四国大学, 2007年9月.

山田智輝 「Sarasvatī を巡って -リグヴェーダを中心に-」 日本印度学仏教
学会第59回学術大会, 愛知学院大学, 9月, 2008年

山田智輝 「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌の解釈を巡って」 イン
ダス・プロジェクト プロジェクトメンバー全体会議, 総合地球環境学
研究所, 11月, 2008年

山田智輝 「ネパール・ララ湖に伝わる神話を巡って」 第53回印度学宗
教学会学術大会, 大阪国際大学, 5月, 2010年

山田智輝 「リグヴェーダにおけるサラスヴァティーに関する記述を巡って」
日本印度学仏教学会第61回学術大会, 立正大学, 9月, 2010年

山田智輝 「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌 VII 95, 96」 インダス・
プロジェクト プロジェクトメンバー全体会議, 総合地球環境学研究所,
11月, 2010年

3 大学院生・学部生等の受賞状況

西村直子 第50回印度学宗教学会学会賞 (2007年6月)

第51回日本印度学仏教学会賞 (2009年9月)

スダン・シャキヤ 第41回日本密教学学会賞 (2008年10月)

4 日本学術振興会研究員採択状況

2008年度, PD, 採用, 1名.

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008年度 大学院 ハンブルク大学 ドイツ

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
07	1	0	1
08	1	0	1
09	1	0	1
10	2	0	2
11	1	0	1
計	6	1	6

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

林隆嗣 (D 2003 単位取得退学) , こども教育宝仙大学教授, 2009 年
 笠松直 (D 2008 修了) , 仙台電波工業専門学校総合科学科専任講師, 2009 年

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2006-10 年度 国際交流基金 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

『論集』（宗教学専攻分野と共催する印度学宗教学会の機関誌）毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第50回学術大会，関西大学，2007年6月9－10日

2008年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第51回学術大会，宮城学院女子大学，2008年6月7－8日

2009年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第52回学術大会，金沢大学，2009年5月30－31日

2010年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第53回学術大会，大阪国際大学，2010年5月29－30日

2011年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2007年11月13日	卒業論文・修士論文構想発表
2008年11月21日	卒業論文・修士論文構想発表
2009年5月15日	卒業論文・修士論文成果発表会

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

平成19年度には文学部の耐震改修工事が実施されたため，夏から冬にかけて，研究室の多くの図書・雑誌を保管先に送り，使用することができなくなってしまった。また改修工事の前後には，大量の図書を梱包し，また開封して元通りに配置するために，大学院生と学部生全員に多大な時間と労力を割いてもらわざるを得なかった。このような，

かつてない厳しい環境下にあったにも拘わらず、本研究室の大学院生たちは懸命に研究を続けた。平成 19 年度末に 1 名、平成 20 年度初めに 2 名が課程博士論文を提出して学位を取得したことは、その表れである。

現在在籍中の大学院生はヴェーダの祭式・説話、伝統文法、広義の仏教タントラ文献などを研究対象としている。ヴェーダ研究の諸相において本研究室は国際的に見ても生産的な拠点の観を呈している。後藤敏文教授は、ハーバード大学のヴィッツェル教授と共同で、注釈つきで『リグ・ヴェーダ』ドイツ語訳全 4 巻の出版を開始し、2007 年に第 1 巻を刊行した。

密教研究の分野においては、国際的な密教研究の興隆とともに、本研究室は重要な研究拠点となりつつある。2009 年 4 月には日本学術振興会外国人研究員として **Sudan Shakya** 氏を受け入れ、桜井と共に二カ年間の共同研究に入り、インド・ネパール密教の基盤を文献学的に考察している。

そもそも「インド学仏教史」の研究には「サンスクリット」、パーリ語、チベット語の訓練に時間と力を割くことが前提となるため、研究発表は数多くは望めない。参考文献を利用するために欧米言語の習得も必須である。博士論文には中核的テーマを正面から選ぶことが後の研究に重要であり、大学院生はこれに専念する必要がある。

以上は、本学の「インド学仏教史」の伝統の上に立つ成果であると言える。ヴェーダ文献と仏教タントラ以外の分野を補充するべく 2007 年に赴任した准教授の吉水は、主にインド哲学諸学派および中世までの時代のヒンドゥー教に関する研究教育を進めている。

加えて 2009 年 9 月 1 日から 9 月 5 日にかけて京都大学で開かれた第 14 回世界サンスクリット会議を準備するために、吉水は、桂紹隆龍谷大学教授および **Mark Siderits** イリノイ州立大学教授と共に、哲学部会の部会招集者として発表希望者の選別審査に当たり、48 名の発表者より成るプログラムを作成し、また自ら研究発表をした。後藤敏文はこの会議の言語部会とヴェーダ部会で研究発表し、他にヴェーダ部会で西村直子及び笠松直が、タントリズム部会で倉西憲一が研究発表した。また会議終了後、吉水は桂教授および **Siderits** 教授と共同で哲学部会紀要の編集を開始し、2011 年 7 月に、インド哲学専門の学術誌として世界的に評価の高い **Journal of Indian Philosophy** の一分冊として紀要を刊行することができた。

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災の際には、本研究室は、文学研究科研究棟の

最上階に位置するために最も揺れが激しく、全ての部屋の全ての書架から、最下段に至るまでの図書が飛び出して床に散乱し、多くの機材が落下し、壁に打ち付けてあった書架が壁から剥がれた。未曾有の危機の中で、助教の菊谷竜太は、2011年6月より研究助手となる尾園絢一とともに、懸命に研究室の復旧にあたり、4月には強い余震により再び図書が散乱するという困難を乗り越えて、5月の学期開始までに研究環境を元通りに回復することができた。

震災とその復旧作業のため研究室メンバーは皆、多大な労力を費やさざるを得なかったが、その間にも可能な限り研究を継続した。その一つの表れとして、2011年9月20日から23日にかけてルーマニアのブカレストで開かれた第5回国際ヴェーダ学ワークショップにおいて、本研究室のヴェーダ学研究の水準の高さを世界的に示すことができた。教員の後藤と吉水の他に、西村直子と尾園が研究発表を行い、いずれも堅実でかつ独創的な研究として好評を博した。

今後さらなる充実が望まれる分野としては、中世以降のインド文学と科学、唯識、中観を中心とする大乘仏教教理の研究、パーリ経典や大乘仏典そのものの研究などが挙げられる。グローバル化する国際情勢の中で、インドは独自の文化を保ちつつ経済大国化への道を歩み始めている。今後益々国際社会で注目されていくインドの文化に関して、人文科学の観点からの正確な認識を学生に与えるために、また意義ある研究成果を発表しつつも未だ定職につく機会を得ていない若手研究者を活用する意味からも、これらの分野での非常勤講師を確保することが重要である。

III 教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

後藤敏文 「荷車と小屋住まい: ŚB *sālām as*」『印度学仏教学研究』55, pp. 220–224. 2007.

後藤敏文 「*śraddhā*-, *crēdō* の語義と語形について」『論集』34, pp. 578–638. 2007.

Toshifumi GOTŌ “Reisekarren und das Wohnen in der Hütte: *sālām as* im Śatapatha-Brāhmaṇa”, *Indologica. T. Ya. Elizarenkova Memorial Volume*, Book 1, Moscow, pp. 115–125. 2008.

Toshifumi GOTŌ “Der Optativ *bhṛjyēyur* in den Yajurveda-Saṁhitās”, *Zarathushtra entre l’Inde et l’Iran*, Études indo-iraniennes et

indo-européennes offertes à Jean Kellens à l'occasion de son 65^e anniversaire, ed. para É. Pirart et X. Tremblay. Wiesbaden. pp. 107–113. 2009.

後藤敏文 「『業』と『輪廻』－ヴェーダから仏教へ」北海道印度哲学会『印度哲学仏教学』24, pp. 16–41. 2009.

後藤敏文 「資料 『リグヴェーダ』 アパーム・ナパート 「水たちの孫」 讃歌」『水と火の神話－「水中の火」』篠田知和基編 (楽瑯書院), pp. 421–430. 2009.

Toshifumi GOTŌ “*Aśvín- and Nāsatya- in the Rigveda and their Prehistoric Background*”, *Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia*. Edited by Toshiki Osada, New Delhi, pp.199–226. 2009.

Toshifumi GOTŌ “Notizen zu den Verben in Yasna 9 (Hōm-Yašt)”, *Protolanguage and Prehistory. Akten der XII. Fachtagung der Indogermanischen Gesellschaft, vom 11. bis 15. Oktober 2005 in Krakau*. Herausg. von R. Lühr und S. Ziegler. Wiesbaden. pp.160–181. 2009.

Toshifumi GOTŌ “The Rigveda Dictionary from a modern viewpoint”, *From Past to Future: Graßmann's Work in Context. Graßmann Bicentennial Conference, September 2009*. Eds.: H.-J. Petsche, A.C. Lewis, J. Liesen, S. Russ. Basel, pp. 363–376. 2011.

後藤敏文 「資料 ヴェーダ文献に見られるプルーラヴァス王と天女ウルヴァシーの物語」『愛の神話学』篠田知和基編, 楽瑯書院 (名古屋), pp.435–480. 2011.

桜井宗信 「〈七瑜伽(sbyor ba bdun)〉覚書」, 『密教理趣の宇宙』, 智山勧学会, pp.(359)-(370). 2007年

桜井宗信 「後期インド密教における悲愍の一側面－〈完全なる悲愍〉を巡って－」, 『日本仏教学会年報』第72号, pp.91-105(横組), 2007年

桜井宗信 「文殊具密流の伝える死者儀礼」, 『真言密教と日本文化』, ノンブル社, pp.159-181(横組), 2007年

桜井宗信 「インド後期密教における葬儀と追善」, 『現代密教』第19号, pp.135-144, 2008年

桜井宗信 「〈五相現等覚〉ノート—Jñānapāda 流成就法を中心として—」, 『智山学報』第58輯, pp.(37)-(53), 2009年

- 桜井宗信 「Jñānapāda 流の伝える死者蘇生儀礼—Vitapāda の所説を中心に—」, 『現代密教』第 20 号, pp.197-210, 2009 年
- 桜井宗信 「聖者流の伝える荼毘儀礼—ḥPhags pa lha (*Āryadeva) に帰された著作を中心に—」, 『現代密教』第 21 号, pp.67-79, 2010 年
- 桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼(1)—dPal mchog rDo rje sems dpa'i sgo nas tha ma'i dus la bab pa rnams rjes su 'dsin pa'i cho ga を中心に—」, 『日本西蔵学会々報』第 57 号, pp1-16, 2011 年
- 桜井宗信 「Kambalapāda (La ba pa) の『チャクラサンヴァラ成就法』—その構成と観想法—」, 『密教図像』第 30 号 (印刷中, 2011 年 12 月刊行予定)
- 吉水清孝 「祭式で虚偽を語ってはならないのは何のためか—定動詞表示と文脈—」 『印度学仏教学研究』第 55 巻第 2 号, pp. 814–820. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila’s Reevaluation of the Sacrifice and the Veda from a Vedānta Perspective,” J. Bronkhorst (ed.) : *Mīmāṃsā and Vedānta, Interaction and Continuity. Papers of the 12th World Sanskrit Conference. Vol. 10.3, Delhi*, pp.201–253. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila’s Propositional Derivation (*arthāpatti*) without Pervasion (*vyāpti*),” K. Preisendanz (ed.) : *Expanding and Merging Horizons. Contributions to South Asian and Cross-Cultural Studies in Commemoration of Wilhelm Halbfass*, Vienna, pp.315–335. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the fragment of the *Bṛhaṭṭikā* on inseparable connection (*avinābhāva*),” B. Kellner, H. Krasser, H. Lasic, M. T. Much, H. Tauscher (eds.): *Pramāṇakīrtiḥ, Papers Dedicated to Ernst Steinkellner on the Occasion of his 70th Birthday*, (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 70), Vienna, pp. 1079–1103. 2007.
- 吉水清孝 「定動詞の *kāraka* 表示論証とクマーリラによるその批判について」 『論集』 (印度学宗教学会) 34, pp. 506-522. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “The Intention of Expression (*vivakṣā*), the Expounding (*vyākhyā*) of a Text, and the Authorlessness of the Veda,” *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 158, pp. 51-71. 2008.
- 吉水清孝 「祭式のなかの神々—ミーマーンサー学派の立場から—」 『論集』 (印度学宗教学会) 35, pp. 51-72. 2008.

吉水清孝 「クマーリラにおける語の意味と文脈」『東北大学文学研究科研究年報』59, pp. 66-82, 2009.

吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家 Bhārucci の paramātman 論」『印度学仏教学研究』第 59 巻第 1 号, pp. 297-302, 2010.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the fragment of the *Bṛhaṭṭikā* on restriction (*niyama*),” Helmut Krasser, Horst Lasic, Eli Franco, Birgit Kellner (eds.), *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis. Proceedings of the Fourth International Dharmakīrti Conference. Vienna, August 23–27, 2005*. Wien, pp. 507–521, 2011.

Kiyotaka YOSHIMIZU “How to Refer to a Thing by a Word: Another Difference between Dignāga’s and Kumārila’s Theories of Denotation,” *Journal of Indian Philosophy*, vol. 39, no. 4-5, Special issue on 14th World Sanskrit Conference, pp. 571-587, 2011.

吉水清孝 「シャンカラにおける瞑想の客体としての最高我 (paramātman) について」『論集』(印度学宗教学会) 37, pp. 213-230, 2011.

吉水清孝 「中世初期における仏教思想の再形成—言説の理論をめぐるバラモン教学との対立—」『シリーズ大乘仏教 第二巻 大乘仏教の誕生』春秋社, (印刷中)

Kiyotaka YOSHIMIZU “Tradition and Reflection in Kumārila’s Last Stand against the Grammarians’ Theories of Verbal Denotation,” *Samśkr̥tasādhuṭā, ‘Goodness of Sanskrit’: Studies in Honour of Professor Ashok Aklujkar*. (印刷中)

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における三種の滴瑜伽について」, 『佛教学』第 50 号, 2008 年.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における二次第をめぐる—ブッダシュリー—ジュニャーナパーダとヴィタパーダを中心に」『東北大学文学研究科研究年報』第 60 号, 東北大学大学院文学研究科, pp.(1)—(23), 2010.

1-2 著書・編著

後藤敏文 *Rig-Veda. Das heilige Wissen. Erster bis zweiter Liederkreis.* Aus dem vedischen Sanskrit übersetzt und herausgegeben von Michael Witzel und Toshifumi Gotō unter Mitarbeit von Eijirō Dōyama und Mislav Ježić. Verlag der Weltreligionen. 2007 年 9 月。(後藤担当分: 167–347,

- 636-780, 409-412, 813-816, 825-855, 856-860, その他全般。) Toshifumi GOTŌ *Old-Indo-Aryan Morphology and its Indo-Iranian background*. Österreichische Akademie der Wissenschaften. Wien 217pp. 2010. (印刷中)
- Mark Siderits, Shoryu Katsura and Kiyotaka Yoshimizu, *Journal of Indian Philosophy*, vol. 39, no. 4-5, Special issue on the 14th World Sanskrit Conference, 2011.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

書評

- 吉水清孝 「山崎元一・小西正捷編『南アジア史 1』(先史・古代), 辛島昇編『南アジア史 3』(南インド)」『印度哲学仏教学』22, 381-382 頁. 2007

解説

- 後藤敏文 「古代インドイランの宗教から見た一神教」『一神教の学際的研究 研究成果報告書』2006年度, 同志社大学一神教学際研究センター, pp. 86-111. 2007.
- 後藤敏文 「古代インドの祭式概観 -形式・構成・原理-」『総合人間学叢書』第3巻, 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所, pp. 57-102. 2008.
- 後藤敏文 「インドのことばとヨーロッパのことば」『ことばの世界とその魅力』人文社会科学講シリーズ III, 阿子島香編, pp. 118-163. 2008.
- 後藤敏文 「(論文と解説)部族の火の東進 -『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景」後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信吾 総合地球環境学研究所 2007年度成果報告書『環境変化とインダス文明』, プロジェクトリーダー 長田俊樹, pp.127-140, 2009.
- 後藤敏文 「ヴェーダ時代のサラスヴァティー河をめぐる」後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信吾 総合地球環境学研究所 2007年度成果報告書『環境変化とインダス文明』, プロジェクトリーダー 長田俊樹, pp.115-

118. 2009.

後藤敏文 「古インドアーリヤ語」, 「アヴェスタ語」 月刊 『言語』, 特集 古典語・古代語の世界, 大修館, 2008年 (Vol. 37) 12月号, pp.36-44, 80-83.

後藤敏文 「古代インド文献に見る天空地」 『天空の神話 - 風と鳥と星』 篠田知和基篇, 楽瑯書院, pp.107-125. 2009.

後藤敏文 「インドの天空, そして大地」 『アジア遊学』 121, 特集「天空の神話学」, 勉誠出版, pp.18-25. 2009.

後藤敏文 「インド学へのいざない [1] インド学とは」 月刊 『言語』, 大修館, 2009年 (Vol. 38) 4月号, pp.66-71.

後藤敏文 「インド学へのいざない [2] リグヴェーダ」 月刊 『言語』, 大修館, 2009年 (Vol. 38) 5月号, pp.80-85.

後藤敏文 「インド学へのいざない [3] ブラーフマナからウパニシャッドへ」 月刊 『言語』, 大修館, 2009年 (Vol. 38) 6月号, pp.80-85.

後藤敏文 「インド学へのいざない [4] 仏教の成立」 月刊 『言語』, 大修館, 2009年 (Vol. 38) 7月号, pp.80-85.

後藤敏文 「インド学へのいざない [5] パーニニのサンスクリット文典と古典期の諸文献」 月刊 『言語』, 大修館, 2009年 (Vol. 38) 8月号, pp.82-87.

後藤敏文 「インド学へのいざない [6] 入門インド学」 月刊 『言語』, 大修館, 2009年 (Vol. 38) 9月号, pp.80-85.

後藤敏文 「ヴェーダとインド・ヨーロッパ語族の文化」 新アジア仏教史』01 インド I 『仏教出現の背景』 佼成出版社 (奈良康明, 下田正弘編), pp. 174-177. 2010

後藤敏文 「ぶじ往還の記」 インダス・プロジェクト ニュースレター第7号, 総合地球環境学研究所, プロジェクトリーダー長田俊樹, 2010年8月5日, pp. 2-8.

吉水清孝 「クマーリラと『マハーバーラタ』の英雄たち」 『北海道印度哲学仏教学会会報』 21, pp. 12-15. 2007.

辞書項目

後藤敏文 「辻直四郎『インド文明の曙-ヴェーダとウパニシャッド-』, 『宗教学文献事典』, 弘文堂, p.240. 2007.

1-4 口頭発表

後藤敏文 「部族の火の東進 -『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景(現実-神話-儀礼)」, 第 51 回印度学宗教学会, 宮城学院女子大学, 2008 年 6 月.

Toshifumi GOTŌ “Grammatical irregularities in the Rigveda, Book IV”, 14th World Sanskrit Conference, Kyoto, 3-5 September 2009. (Linguistics Section)

Toshifumi GOTŌ “On the Mārtāṇḍa myth in Rigveda X 72”, 14th World Sanskrit Conference, Kyoto, 3-5 September 2009. (Veda Section)

Toshifumi GOTŌ “Das Wörterbuch zum Rigveda aus heutiger Sicht”, From Past to Future: Grassmann’s Work in Context. Grassmann Bicentennial Conference (1809-1877), Potsdam / Szczecin, 16-19 September 2009.

Toshifumi GOTŌ “Vedische Befunde zur Einwanderung der Āryas”, Arbeitstagung der Indogermanischen Gesellschaft 2009: Die Ausbreitung des Indogermanischen. Thesen aus Sprachwissenschaft, Archäologie und Genetik, Würzburg, 24-26 September 2009.

後藤敏文 「アパーム・ナパート「水たちの孫」再考」, 荷車と小屋住まい: ŚB *śālām as*」, 日本印度学仏教学会第 61 回学術大会, 東京(立正大学), 2010 年 9 月 10 日.

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる」校成学園, 2011 年 2 月 16 日(講演)

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる-ヴェーダと仏教」叡山学院, 2011 年 6 月 23 日(学会講演)

後藤敏文 「ヴェーダ文献における『輪廻と業』」龍谷大学, 2011 年 7 月 21 日(公開講演)

Toshifumi GOTŌ “A survey of some evidences for the development of Yajurveda and Brāhmaṇa texts”, The Fifth International Vedic Workshop. Vedic śākhās: Past, Present and Future), Bucharest (Romania), 20-23 September 2011.

桜井宗信 「文殊具密流の伝える死者儀礼」, 第 51 回智山学術大会, 東京都港区(真福寺), 2007 年 5 月.

桜井宗信 「Jñānapāda 流所属の「成就法」における〈五相現等覺〉につ

- いて」, 第 52 回智山学術大会, 東京都港区 (真福寺), 2008 年 5 月
- 桜井宗信 「インド密教における儀礼と神話－悪趣救済をめぐる－」,
第 51 回印度学宗教学会学術大会, 仙台市 (宮城学院女子大学), 2008
年 6 月
- 桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼－dPal mchog rDo rje sems dpa'i sgo nas tha
ma'i dus la bab pa rnams rjes su 'dsin pa'i cho ga を中心に－」, 第 58 回日
本チベット学会大会, 東京都文京区 (東洋大学), 2010 年 11 月 6 日
- 桜井宗信 「La ba pa に帰される『チャクラサンヴァラ成就法』－その構成と
特徴－」, 第 30 回密教図像学会学術大会, 徳島市 (四国大学交流プラザ),
2010 年 12 月 11 日
- 吉水清孝 「クマーリラによるパーニニ文典 2.3.1 の解釈について」, 北
海道印度哲学仏教学会第 23 回大会, 苫小牧 (苫小牧駒澤大学), 2007 年
7 月.
- 吉水清孝 「祭式の中の神々－ミーマーンサー学派の立場から」, 第 51
回印度学宗教学会学術大会, 仙台 (宮城学院女子大学), 2008 年 6 月.
- 吉水清孝 「クマーリラにおける語の意味表示と文脈」 印度学宗教学会
第 52 回学術大会, 金沢 (金沢大学), 2009 年 5 月.
- Kiyotaka YOSHIMIZU "How to refer to a thing by a word: Another difference
in the theories of denotation between Dignāga and Kumārila," 14th World
Sanskrit Conference, Kyoto University. 2009 年 9 月.
- 吉水清孝 「ヴェーダーンタ思想における最高我 (paramātman) につい
て」 印度学宗教学会第 53 回学術大会, 大阪 (大阪国際大学), 2010 年 5
月.
- 吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家 Bhāruci の paramātman 論」 日本印度学
仏教学会第 61 回学術大会, 東京 (立正大学), 2010 年 9 月.
- 吉水清孝 「法源論から見たクマーリラの (大乘) 仏教批判」 東方学会
第 56 回国際東方学会議, 東京 (日本教育会館), 2011 年 5 月
- 吉水清孝 「クマーリラの寛容論」 日本印度学仏教学会第 62 回学術大会,
京都 (龍谷大学), 2011 年 9 月
- Kiyotaka YOSHIMIZU "Tolerance and Intolerance in Kumārila's Views on the
Vedic śākhā," The 5th International Vedic Workshop, Bucharest, 2011 年 9
月.
- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における金剛念誦次第」, 仏教思想学会, 鶴

見大学, 2007年6月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の四支成就法(caturaṅgasādhana)について」,
密教研究会平成20年度学術大会, 高野山大学, 2008年7月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の究竟次第をめぐって」, 日本印度学仏教学
会第59回学術大会, 愛知学院大学, 2008年9月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって —Buddhaśrījñāna,
Dīpaṅkarabhadra, *Viḍapāda—」第52回印度学宗教学会学術大会, 金沢
大学, 2009年5月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって」, 平成21年度密教
研究会学術大会, 高野山大学, 2009年7月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって —『普賢成就法』
と『四百五十頌』—」日本印度学仏教学会第60回学術大会, 大谷大学,
2009年9月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流における守護尊の受容と展開」第53回印度
学宗教学会学術大会, 大阪国際大学, 2010年5月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第の伝承をめぐって」, 平成22年
度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2010年7月.

2 教員の受賞歴 (2007~2011年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2007~2011年度)

(1) 科学研究費補助金

2005-2008年度科学研究費補助金基盤研究(C), 吉水清孝(研究代表者)「イ
ンドのテキスト解釈学における文脈理論の基礎的研究」課題番号
17520042, 3,600,000円(2008年度までの4年間総額)

2007年度-2010年度科学研究費補助金基盤研究(B), 後藤敏文(研究代表者)
「リグヴェーダ翻訳研究」課題番号19320009, 10,140,000円(4年間総額)

2009年度-2011年度科学研究費補助金基盤研究(C), 桜井宗信(研究代表者)
「密教流伝史研究 —インド・チベット密教翻訳僧データベースの構築—」課
題番号21520053-00, 2,300,000円(3年間総額)

2009年度-2010年度科学研究費補助金特別研究員奨励費, 桜井宗信(研究代
表者)「ネパール仏教文化史の総合的研究」課題番号21-09002, 1,500,000

円(2年間総額)

2010 年度 科学研究費補助金基盤研究(B), 桜井宗信(研究分担者)「ヴィクラマシーラ寺院の学僧著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究」
課題番号 22320014, 600,000 円(2010 年度配分額)

2010-2012 年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 吉水清孝(研究代表者)「マヌ法典註釈における法源論の研究—聖典解釈学との関係を中心に」課題
番号 22520050, 1,200,000 円(2010 年度配分額)

2010-2012 年度 科学研究費補助金若手研究(B), 菊谷竜太(研究代表者)「イ
ンド密教流派形成史におけるマンダラ儀礼の総合的研究」課題番号
22720022, 1,500,000 円(2010 年度配分額)

2011 年度-2013 年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 後藤敏文(研究代表者)
「『業と輪廻』理論成立史に関する原典研究」課題番号 23520063,
4,550,000 円(3 年間総額, うち間接経費 1,050,000 円)

2011 年度-2014 年度 科学研究費補助金基盤研究(A), 吉水清孝(研究分担者)
「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」課題番号
23242004, 700,000 円(2011 年度配分額)

(2) その他

2010 年, 平成 21-22 年度東北アジア研究センター共同研究助成, 菊谷竜太(研
究代表者)「東北アジアにおけるシャマニズムをめぐる学際的研究」,
300,000 円

V 教員による社会貢献(2007~2011 年度)

後藤敏文 「インドのことばとヨーロッパのことば」, 有備館講座第 4 期
「世界の言語」大崎市岩出山スコレハウス, 2007 年 2 月 17 日

後藤敏文 「古代インド文献に見る天・空・地」比較神話学シンポジウ
ム「天空の神話」, 2009 年 1 月

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる—ヴェーダ文献とことばの力」
第 54 回智積院暁天講座, 2010 年 8 月 3 日

桜井宗信 「インド仏教学」真言宗智山派伝法院(非常勤教授), 2006
年 8 月~2008 年 5 月

桜井宗信 「古代インドにおける『人生の目的』」, 第 4 期有備館講座(東

北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー講師，2007(平成 19)年 9 月

桜井宗信 真言宗智山派伝法院客員講師：「インド仏教学」．2008(平成 20)年 6 月－現在（※「『悪趣浄化タントラ』チベット語訳校訂テキスト整定」研究会の主宰）

桜井宗信 「インド学仏教史から見える日本 河口慧海とチベット～仏教探求への眼差し～」，平成 21 年度千賀の浦大学 5 月学習会（主催：塩竈市生涯学習センター）講師，2009 年 5 月

桜井宗信 「インド・チベット仏教と死者供養—葬儀と追善—」，平成 21 年度真言宗智山派山形村山置賜教区合同講習会講師，2009 年 8 月

桜井宗信 「河口慧海と仏教文献学—彼をチベットへ駆り立てたもの—」，平成 22 年度みやぎ県民大学講師，2010 年 9 月

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011 年度）

後藤敏文

日本印度学仏教学会評議員 1991 年度－現在

日本印度学仏教学会理事 1991 年度－1996 年度, 2002 年度－現在

日本仏教学会理事 1991 年度－1996 年度, 2002 年度－2004 年度

印度学宗教学会常務理事 1997 年度－現在

印度学宗教学会会長 2008 年 6 月－2010 年 5 月

インド思想史学会理事 1993 年度－現在

Indogermanische Gesellschaft, Beirat（印欧語学会，顧問）2004 年 11 月－現在
同編集企画委員 2007 年度－現在

Mitglied des Münchener Sprachwissenschaftlichen Studienkreises 2000 年－現在

Historische Sprachforschung 編集顧問 2008 年度－現在

桜井宗信

日本印度学仏教学会評議員 1999 年度－現在

印度学宗教学会常務理事 1999 年度－現在

日本仏教学会理事	2005 年度－現在
仏教思想学会評議員	2006 年度－現在
日本西蔵学会委員	2006 年度－現在
密教研究会理事	2006 年度－現在

吉水清孝

日本印度学仏教学会評議員	2009 年度－現在
インド思想史学会評議員	2001 年度－2004 年度
インド思想史学会理事	2005 年度－現在
印度学宗教学会常務理事	2008 年度－現在
北海道印度学仏教学会評議員	1997 年度－2002 年度, 2007 年度－現在

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2011 年度)

1 大学院授業担当

後藤敏文 教授

インド学特論 I 「リグヴェーダ選, 第 10 卷ヤマスークタ」
インド学特論 II 「リグヴェーダ選, 第 7 卷から」
インド学研究演習 I 「サンスクリット文学選, シャクンタラー姫の物語, 想起の場」
インド学研究演習 II 「ブラーフmana選, シュナツハ・シェーパの物語」

桜井宗信 教授

インド仏教史特論 I 「Bu ston Rin chen grub 著『秘密の門を開く』の原典講読」
インド仏教史特論 II 「Bu ston Rin chen grub 著『秘密の門を開く』の原典講読」

吉水清孝 准教授

インド学特論 I	ヒンドゥー教文献講読 (1) (Mahābhārata)
インド学特論 II	ヒンドゥー教文献講読 (2) (Mahābhārata)
インド学研究演習 I	インド哲学文献研究 (1) (マヌ法典註釈)
インド学研究演習 II	インド哲学文献研究 (2) (マヌ法典註釈)

2 学部授業担当

後藤敏文教授

- インド学概論（前期） 「ヴェーダ文献のことばと思想，リグヴェーダからブラーフマナへ」
インド学概論（後期） 「ヴェーダ文献紹介，詩人のことばから業と輪廻へ」
パーリ語（前期） 「パーリ語入門」
パーリ語（後期） 「パーリ語講読」
インド学演習（前期） 「サンスクリット文学選，シャクンタラー姫の物語，想起の場」
インド学演習（後期） 「ブラーフマナ選，シュナッハ・シェーパの物語」

桜井宗信 教授

- インド仏教史概論（前期） インド仏教史概説－その1－
インド仏教史概論（後期） インド仏教史概説－その2－
インド仏教史各論（前期） **Bu ston Rin chen grub** 著『秘密の門を開く』の原典講読
インド仏教史各論（後期） **Bu ston Rin chen grub** 著『秘密の門を開く』の原典講読
インド仏教史演習（前期） 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読
インド仏教史演習（後期） 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

吉水清孝 准教授

- インド学概論（後期） インド哲学とヒンドゥー教
インド学基礎演習（前期） ヒンドゥー教文献入門（**Bhagavadgītā**）
インド学各論（前期） ヒンドゥー教文献講読（1）（**Mahābhārata**）
インド学各論（後期） ヒンドゥー教文献講読（2）（**Mahābhārata**）
インド学演習（前期） インド哲学文献研究（1）（『マヌ法典』註釈）
インド学演習（後期） インド哲学文献研究（2）（『マヌ法典』註釈）

3 共通科目・全学科目授業担当

後藤敏文 教授

現代学問論「古代インドの文献と人類史の今」2011年11月8日～12月6日（火

曜 5 時限)

(2)他大学への出講 (2007～2011 年度)

後藤敏文 教授

総合地球環境学研究所共同研究員 (2004 年 6 月－現在)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員(2004 年度－2009 年
度)

京都大学人文科学研究所研究班班員 (1995 年度－現在)

大阪大学大学院文学研究科非常勤講師(2010 年度)

京都大学大学院文学研究科, 文学部非常勤講師 (2011 年度)

桜井宗信 教授

大阪大学大学院非常勤講師 (2009 年度)